

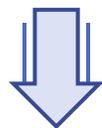
**温故創新**

**おおくまが目指す  
未来の学校**

**大熊町教育委員会 木村 政文**

# 1 学年を超えて、 児童生徒が一緒に学ぶ

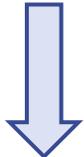
～ 一人一人が心地よい空間～



**生涯幼稚園児**

# Qubenaを活用した「子どもの変容」

## ☆ Qubenaで「**自分から学べる子**」に

- 一斉授業では理解に時間のかかる子のペース  
(障がいのある子・外国籍の子も)  

- Qubenaを取り入れてからは、一人一人がじっくりと自分のペースで課題に取り組み、自分が何を学んだか振り返り、自分でまとめる。
  - 『自分で頑張った分だけ着実に身につく』 実感
  - 子ども同士の学び（協働的な学び）が深まる
  - 自分に合った**学び方**が身についてきている

ハイブリッドな学びの構築  
～ AIを最大限に活用した  
個別最適・協働的な学びの循環～



一人一人が、  
自分の目標をもとに、  
自分のペースで、  
自分に合った方法による学び



タブレット  
(AI) で！



好きな場所で！



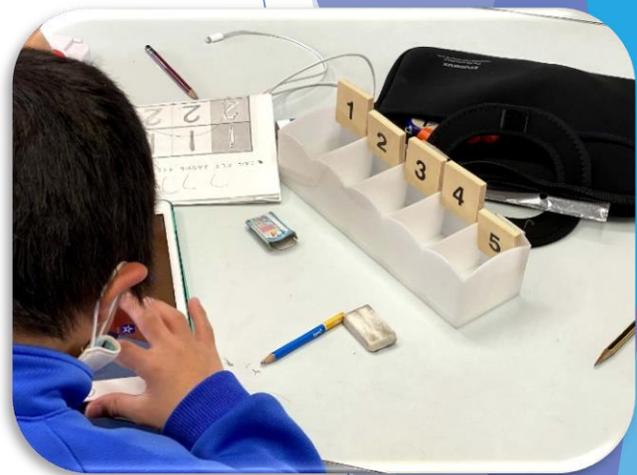
プリントで！



ゆるやかな協働性に支えられた学び  
～個別に、そして、時に協働的に～

## インクルーシブ教育

～多様性の尊重、ともに学ぶ安心感～



ともに学びたい

障がいのある子も  
ない子も

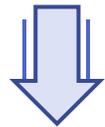


## 2 教師の役割も変わった

～戸惑いも手応えもある～



**ヤジロベエ的** に動き始める 教師



**学びをデザインする  
デザイナー**

## Qubenaを活用した「教師の手応え」

### ☆ Qubena導入でもがき、突き抜けつつある教師

- 教える時間、及び教材や資料準備の時間が減少



- 生み出された時間 = 時間の余裕

→ じっくり学習指導要領、教科書を読む

→ さまざまな問題を解く

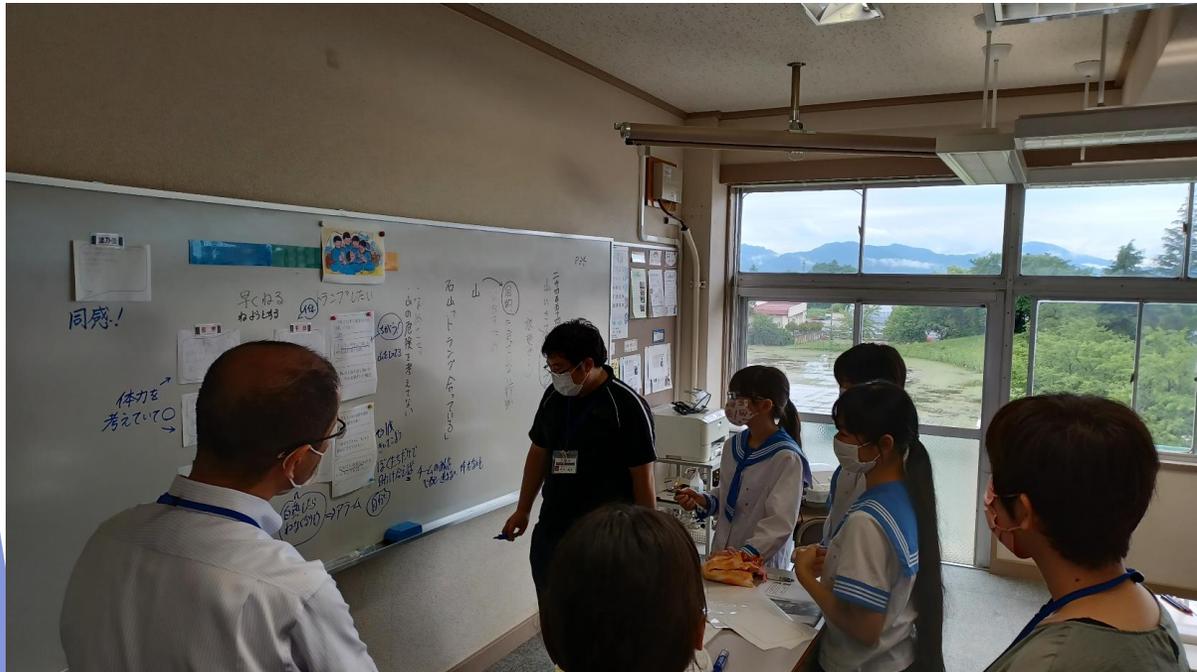
→ **より教材研究の時間に充てられる**

→ 探究のSTEAM化（未来デザインの時間）の企画力・運営力向上

→ 教師の協働性・同僚性の発揮

# 授業スタイルも変わった

黒板を前に、椅子に座って、  
先生の話聞いて、  
ノートを取る授業からの  
**脱却**



ホワイトボードの前で、立ちながら  
**「考え、議論する」**



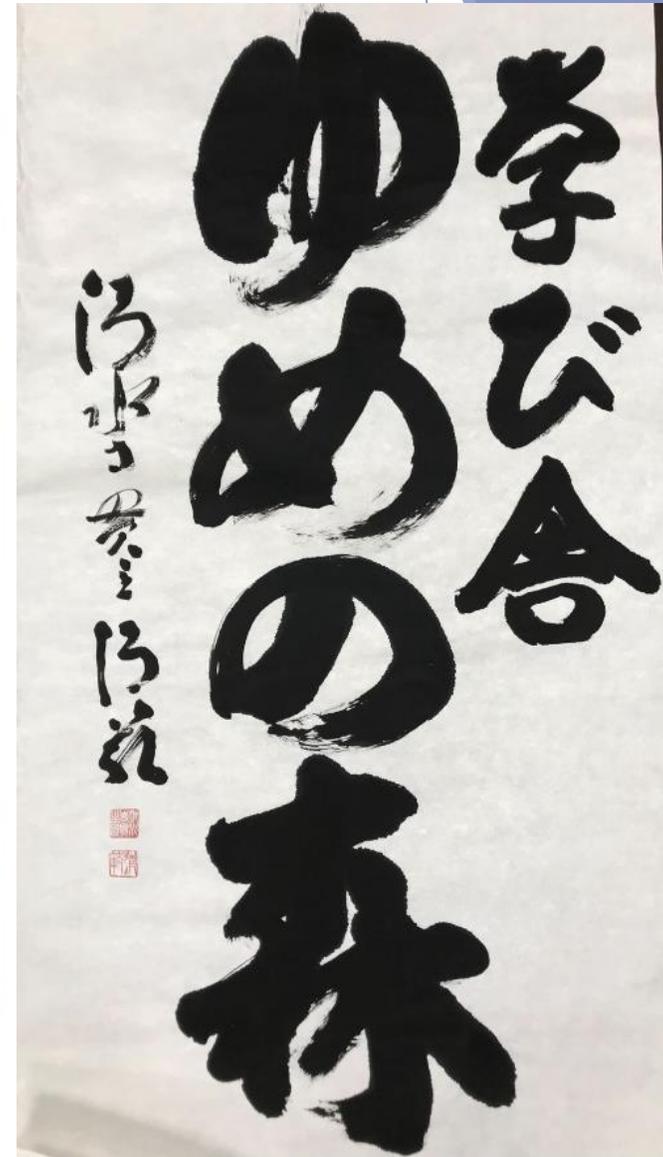
# 3 子どもの学びを活かす校舎

～ 子どもが自律的に  
個別最適・協働的な  
スタイルで学ぶ環境 ～

# 2023年 大熊町で学校再開

義務教育学校  
「大熊町立 学び舎 ゆめの森」

■外観パース



清水寺 森清範 猯下に  
揮毫していただきました。

# < 居心地の良い 突き抜け感 >

令和2年度11月27日(金)  
河北新報(宮城県の地方紙)の記事

デスク  
日誌

突き抜け感

子どもたちは実に明るい。「こんにちは」と大きな声であいさつしてくれる。おじさん記者の丸まった背筋がぴんとなる。東京電力福島第1原発事故で会津若松市に避難する福島県大熊町の学校に通う子どもたちに、いつも元気をもらおう。

取材で質問をすると、的確な答えが返ってくる。大熊に限らない。東日本大震災と原発事故後、自分の考えをしっかりと説明できる子が、被災地で増えたように思う。

その一方で心配なこともある。復興に懸命に取り組む大人を見聞きして育った子どもたち。「自分もしつ

かりしないと」と過度に期待に応えようとしていないか。子どもらしさを閉じ込めていないか…。

もっとも大熊の子の場合、無用の心配かもしれない。先生をはじめ周囲の人たちが、笑顔や希望を失っていないからだ。

交流ワイド面の連載「学び再興 福島・大熊の挑戦」で紹介した町の新たな義務教育学校は、いわば「学校らしくない学校」。周回遅れの復興を悲観してばかりいられない。どこにもない学校をつくろう。魅力ある学校には人が集う。そんな突き抜け感が新鮮だ。(会津若松支局長 玉應雅史)